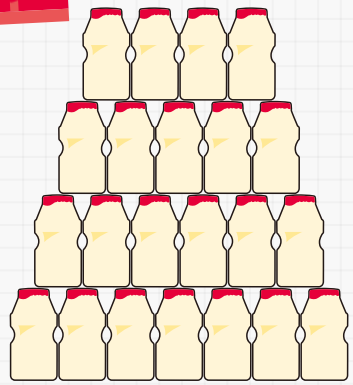
ヤクルトの社会へのインパクト

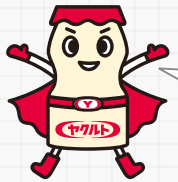
ヤクルトグループは、事業活動を通じて社会に対してさまざまなインパクト(影響)を与えています。ポジティブなインパクトを最大化し、ネガティブなインパクトを最小化するために、ヤクルトグループは「気候変動」「プラスチック容器包装」「水」「イノベーション」「地域社会との共生」「サプライチェーンマネジメント」の6つのマテリアリティ(重要課題)に取り組んでいます。

ヤクルトの乳製品が1日に飲まれている本数

4,000万本以上

2021年3月期



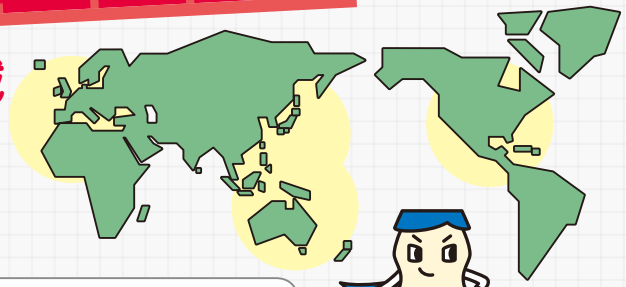


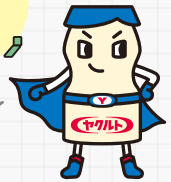
「ヤクルト」は世界中でたくさんの人に飲まれているんだね!

ヤクルトが進出している国・地域と販売対象人口

世界40の国・地域

約24億人

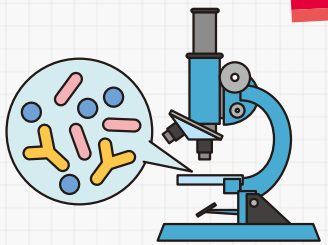




日本を含むアジア・オセアニア、米州、欧州に広がっているよ!

イノベーション

ヤクルトの国内外の特許保有件数



約1,000件

研究・開発の地道な努力が成果として表れた数字だね!

地域社会との共生

愛の訪問活動でヤクルトレディがお宅を訪問している高齢者数

約36,000人

数値は2020年度実績

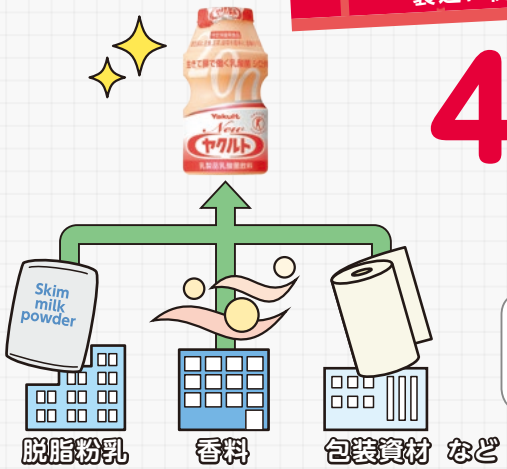
ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、お話し相手になるという活動を推進しているよ。

サプライチェーンマネジメント

「Newヤクルト」の製造に関わる 一次サプライヤー

45社

一次サプライヤーが商社の場合は二次サプライヤーを含む



サプライチェーン全体で社会・環境に与える影響について考えているよ。

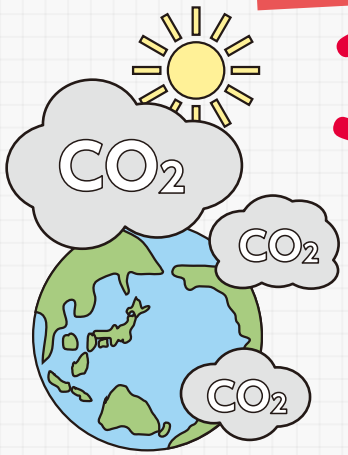
気候変動

温室効果ガス

385,150 t

2020年度

ヤクルト本社(物流含む)、生産子会社5社、国内スコープ1・2・3の合計値



2050年までに温室効果ガス排出量ネットゼロ(スコープ1・2・3)を目指すよ!

プラスチック容器包装

プラスチック使用量

12,237 t

2020年度日本国内

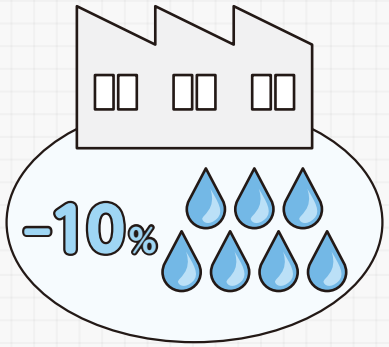
プラスチック製容器包装の資源循環を推進!

水

水使用量

6,172 t

国内外の生産拠点／数値は2020年度実績



水は大切な資源。2030年には、水使用量(国内乳製品工場:生産原単位、2018年度対比)10%削減を目指すよ!